

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 川越町	対談項目1 河川・海岸整備について	朝明川の河川整備について	<p>河道を掘削する際に出る土砂を捨てる場所の確保について川越町においても、町所有のストックヤードの提供等大変ご協力をいただいております、改めて感謝申し上げます。</p> <p>福崎橋から国道1号朝明橋の区間約800mの河川整備については、福崎橋から上流約470mの区間は、高潮対策として堤防嵩上げや川側の法面のコンクリートによる補強を実施します。高潮対策区間から上流の国道1号朝明橋までの区間約330mは、川側法面のコンクリートによる堤防補強を行います。今年度は福崎橋から国道1号朝明橋の約800m区間で測量・設計を行います。設計完了後、地元調整を行い、29年度から福崎橋から上流に向けて堤防嵩上げ工事に着手する予定です。</p>
2 川越町	対談項目1 河川・海岸整備について	員弁川の河川整備について	<p>員弁川の河川内には、相当な雑木が繁殖しており、県にはこれまでも伐採をしていただき、また、町としても雑木の処分を県と協働して行っているところです。しかし、撤去後も雑木の成長が早く、豪雨の際には水流を阻害するものと思われます。また、雑木が残ることで上流からの土砂が堆積し、現在も場所によってはかなり河床が高くなってきています。それらの撤去も含めて計画に行っていたきたいと思います。(知事発言後の追加発言)</p> <p>雑木については、伐採では一時しのぎであり、根っこから撤去していただきたいと思っていますので、よろしく願います。</p>
3 川越町	対談項目1 河川・海岸整備について	川越地区海岸の地震・高潮対策について	<p>特に背後地の地盤高が低い当町のゼロメートル地域においては、地震の揺れにより海岸堤防が崩壊すると津波の襲来の前に浸水することや浸水期間が長期化することが懸念されます。地域の皆さんが安心して暮らせるよう、より早く堤防の地震・高潮対策を進めていただきたいと思っています。</p> <p>平成26年度から延長640mの区間で高潮対策工事を実施しています。この内、約260mで耐震対策が必要なため、併せて矢板工による耐震対策を行っており、平成27年度までに190mの工事が完了し、残る70mについても今年度中に完成する予定です。</p> <p>高潮対策工事は、平成27年度までに170mの工事が完了しており、残る470mについては、平成33年度の完成を目指しています。</p>
4 川越町	対談項目2 認知症対策について	認知症施策について	<p>基本的には認知症には早期診断、早期治療が重要だと思っています。県としては、認知症サポート医養成研修とあわせて、認知症サポート医の方々とともに、かかりつけ医の方々に対する研修を行い、身近なところで医療の専門知識を持っている医師が認知症の課題に対応していけるように努めています。</p> <p>また、市町の担当者の皆さんへの研修の実施や、各市町で平成30年4月までに設置が求められている認知症初期集中支援チームを作るための研修の受講費も県で出させていただいています。</p> <p>認知症初期集中支援チームを設置している自治体の率は、三重県が全国1位。川越町さんもこれから設置していただくと聞いていますが、専門的な知識を持った人たちをなるべく増やす、そうした人材育成について、県もこれからもしっかりと頑張っていきたいと思っています。</p>

平成28年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)1対1対談 開催結果(主な発言内容)

平成28年8月2日 現在

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 川越町	対談項目2 認知症対策について	広域的な認知症高齢者の見守りネットワークについて	<p>県では、「三重県徘徊高齢者等SOSネットワーク連絡調整事務要領」を策定いただき、また高齢者の見守り等に関する協定をセブンイレブン、JAと締結するなど広域の取組を行っていただいています。</p> <p>当町では、認知症サポーター養成講座を各町内、各地区で開催し、地域での人的支援の広がりを図り、ネットワーク構築に努力しているところです。認知症高齢者の方々を地域全体で支援していく環境整備を構築するためにも、県で制定した「三重県徘徊高齢者等SOSネットワーク」を県・市町・警察のみではなく、民間企業・金融機関・公共交通機関等さまざまな機関と連携していただき、県全体での広域的なネットワークの早期の推進をお願いします。</p>	<p>高齢者の見守り等に関する協定もそうですが、たくさん目で見守りをするのが大事だと思っています。企業・団体との協定を増やしていくとともに、それぞれの企業・団体には認知症サポーターの講習も受講していただくようにしており、こうした取組により県全体で見守りの目が増えていくようにしたいと思います。</p> <p>地域包括ケアシステムは基本的に市町で頑張ってもらいたくもありませんが、全国知事会も非常に危機感を持ち、高齢者認知症対策の強化のためのプロジェクトチームを設け、私もその一員となり、先般その提言について議論してきたところです。都道府県も市町の皆さんとしっかりと足並みを合わせて制度の充実を図っていきたく思います。</p> <p>今年の10月14～15日に国内外の認知症の研究者等にきていただいて認知症サミットを三重県で開催するなど、これからも認知症対策を強化していきたいと思っています。</p>
6 川越町	対談項目3 がん検診の受診率向上について	がん検診推進に向けての財源確保について	<p>当町では、がんの早期発見のため自己負担金の軽減や女性のがん検診の際のベビーシッターの配置、様々な啓発活動などを行いがん検診受診率向上に努めています。</p> <p>乳がん・子宮頸がん・大腸がん検診は、国の助成事業として、無料クーポン券が配布されており、平成26年度は県下でも高い受診率を示すことができました。また、町単独の無料クーポン事業も実施し、受けやすい体制づくりに努めています。</p> <p>しかし、胃がん・肺がん検診は、国の無料クーポン助成制度がなく、当町においては、胃がん検診の受診率は県平均より高いものの、まだまだ低い状態です。肺がん検診については、県平均よりも低い受診率となっています。胃がん・肺がんは、全国的にも、また当町においても部位別死因の上位を占めており、受診率向上に向けての対策が必要であると考えています。</p> <p>胃がん・肺がんについても、国の助成制度としてクーポン事業を実施していただくよう、県としても国への要望を切にお願いします。また、国には、がんに対する周知・啓発をぜひ併せて要望いただきたいと思います。</p>	<p>川越町の皆さんは、県内、全国でもトップクラスの検診受診率であるので、誇っていただければと思いますし、未受診の方に対しては、もちろん行政からも声掛けをしますが、受診されている方が大半なので、皆さんどうして声掛けをしていただくことも大変重要なことだと思います。行政から言うだけでなく、皆さんどうして声掛けをして一緒に検診が進んでいく、そういう文化になっていけばいいなと思っています。</p> <p>胃がん・肺がんの受診率向上に向けた国の制度の拡充については、国でのがんに関する会議とか要望の場面もたくさんありますので、しっかり国に要望をしていきたいと思っています。</p>
7 川越町	対談項目3 がん検診の受診率向上について	がん検診受診体制の整備推進について	<p>医療機関で実施する個別の検診については、乳がんと子宮頸がん検診において、管轄の郡市医師会との契約の下、実施しており、当町は四日市医師会と契約を結んで実施しています。しかし、生活圏でもある桑名市での受診を希望する方もたくさんいらっしゃいます。受診率の向上に向け、町民の方が受診できる医療機関の選択肢を増やしていただくことが必要であると思っています。定期の予防接種が相互乗り入れ可能なように、がん検診においても県内医療機関で受診が可能となるような体制の整備を推進していただきたいと思います。</p>	<p>近隣市町での相互乗り入れは、ぜひやっていただく方がいいと思います。今年度から、近隣の市町が相互乗り入れするための協議会を設置したり、そのやり方を議論するための「がん予防・早期発見推進モデル事業」を県で予算化したので、ぜひご活用いただいでご議論いただくといいのではないかと思います。</p> <p>がん対策にも思い入れを持っていて、平成26年4月1日からがんに関する教育の推進とがん患者の方の就労支援という特徴的な取組を持つ三重県がん対策推進条例を制定させていただきました。</p> <p>がん対策のベースは町長がおっしゃっていただいたように早期発見、早期受診であるので、そこもしっかりしつつ条例の特徴も出して、がん対策にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 川越町	対談項目4 保育士の確保対策について	<p>平成26年度に「川越町子ども子育て支援事業計画」を策定しました。この計画では特に、低年齢児の保育のニーズの高まりと事業の資質向上のための方策として、配置基準に対応できる保育士数の確保に努めることとしています。</p> <p>当町では、近年人口が増加し、それに伴い5歳以下の人口も増加傾向にあります。保育所への入所児童数も増えており、平成28年度の定員充足率は103.2%となっています。特に、0・1歳児の増加が大きく、また年度途中での入所希望も多く、速やかな保育士の確保が必要になっています。</p> <p>県においては、保育所で働きたい保育士と保育士を探している保育所関係者の橋渡しを行う福祉人材センターの取組など様々な施策を実施していただいています。</p> <p>保育士不足の解消は、町単独で取り組めることには限界があり、国や県の施策と連携し進めていく必要があると考えており、まずは、福祉人材センターでの実績をお聞かせ願いたいと思います。</p> <p>また、新たな保育士の人材育成に関して、修学資金の貸付など取り組んでいただいているが、長期間継続して人材の育成が期待できる施策が必要であると思います。例えば、保育士を養成する学校機関の設置を推進していただき、県内の学校を卒業し、県内で就職する新たな人材を継続して育成することで、少しでも保育士の人材不足の解消につながるのではないかと思います。知事の考えをお聞かせ願いたいと思います。</p>	<p>三重県の場合は、保育所の面積が足りないというよりは、保育士があまり確保できておらずに待機児童につながっているというケースが多くなっています。保育士の確保は大変重要であり、県の方でも最近では、潜在保育士の方々に対するアンケート調査を行ったり、現場復帰に対する研修の開催回数を増やしたり、昨年度に創設した保育士修学資金貸付の枠を拡大するという形でなんとか確保するようにさせていただいています。</p> <p>福祉人材センターに限れば、昨年度は21名の保育士の就職となっておりますが、さまざまなルートで保育士の確保に努めており、これからもしっかり取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>保育士の養成施設については、学校法人大橋学園が、四日市市にユマニテック短期大学幼児保育学科を来年の4月に設置する認可申請をされています。それが認可されると一定の保育士を養成する枠が増えるので、それをぜひ活用していきたいと思っています。また、今年の3月末から、保育士養成施設の設置認可が国から県に権限移譲されましたので、これからも県として優良な施設が認可されていくように、しっかり取組を進めていきたいと思っています。</p> <p>今般の経済対策でも保育士の確保のことはたくさん書かれており、そういう予算もしっかり確保していきたいと思いますが、併せて保育士の方々の処遇の改善も大事であると思っています。処遇の改善とか勤務環境の改善もいろんな成功事例を三重県に作っていきたくと思っています。</p>